

在宅ケアのための 判断力トレーニング 訪問看護師の思考が見える

清水奈穂美 著

訪問看護師は在宅医療の複雑な状況下で、何を見て、何を考え、どう道筋をつけてケアを組み立てるのか。そしてどう動き、何に備えるのか。最前線で命と暮らしを守る訪問看護師の思考のプロセスを読み解きながら、現場で求められる判断力を鍛えるトレーニング法を伝授する。

定価：2200 円(本体 2000 円＋税 10%)／医学書院

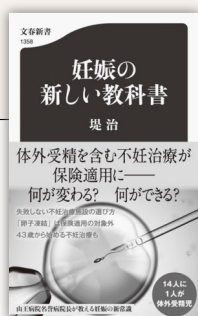


母乳育児ハンドブック

日本小児医療保健協議会(四者協)栄養委員会 編集

日本小児医療保健協議会がまとめた母乳育児支援の書。栄養学的観点、精神・心理的側面、社会的側面から母乳育児の重要性を説き、母乳産生の基礎から母乳育児を支援する活動まで網羅的に解説する。授乳支援の方法や健診時に役立つ知識、問題となる服薬の影響など、実践的内容も充実。

定価：4180 円(本体 3800 円＋税 10%)／東京医学社



妊娠の新しい教科書(文春新書)

堤 治 著

体外受精を含む不妊治療が保険適用になり、何が変わったか？ 今後の課題は？ 長年妊娠・出産に携わってきた著者による最新の知識に加え、不妊治療のなかで患者さんにつらい事実を伝えなければならないときの思い、子どもを産み育てやすい社会になってほしいという願いも綴る。

定価：902 円(本体 820 円＋税 10%)／文藝春秋



人工妊娠中絶をめぐる心のケア 周産期喪失の臨床心理学的研究

菅生聖子 著

語ることさえタブー視されがちな人工妊娠中絶。医療スタッフにとっても葛藤のある出来事のため、罪悪感や喪失感を抱える当事者への心理的ケアも十分ではない。本書は経験者への詳細な調査をもとに現象学的分析を用い、当事者にどのような心理的ケアが必要で、かつ可能なかを考察する。

定価：4840 円(本体 4400 円＋税 10%)／大阪大学出版会



アジアの出産とテクノロジー リプロダクションの最前線

白井千晶 編著

リプロダクション(産み育て)に関するテクノロジーは、「生命を救う」から「生命を選ぶ」ことへ移行している。生殖技術や出生前診断などの新しいテクノロジーはアジアの国々ではどのように認識、利用されているのか。アジアのリプロダクションのダイナミズムとその多様性を明らかにする。

定価：3080 円(本体 2800 円＋税 10%)／勉誠出版



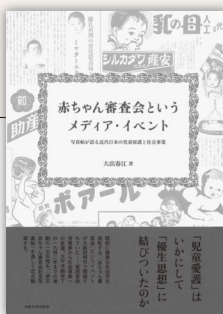
母親になって後悔してる

オルナ・ドーナト 著

鹿田昌美 訳

もし時間を戻せたら、あなたは再び母になることを選びますか？ この質問に「ノー」と答えた 23 人の女性にインタビュー。母親になることで経験する生きづらさやもやもやした感情を言語化した。女性は母親になるべきであるなどの社会通念により見過ごされてきた切実な想いに丁寧に寄り添う。

定価：2200 円(本体 2000 円＋税 10%)／新潮社

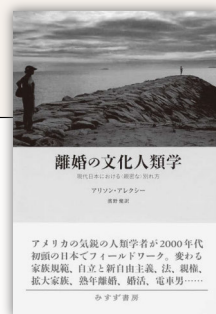


赤ちゃん審査会という メディア・イベント 写真帖が語る近代日本の児童保護と社会事業

大出春江 著

1928 年から堺市で開催していた「赤ちゃん審査会」。復刻版記録写真帖を通して、社会的背景や意義を歴史社会的に考察する。衛生や健康の観念を戦前の日本人はどう身に付けていったのか。国家や医師はいかに乳児死亡率低下と人口増加を達成しようとしたのか。そこでの産婆の役割にも着目する。

定価：6380 円(本体 5800 円＋税 10%)／大阪大学出版会



離婚の文化人類学 現代日本における〈親密な〉別れ方

アリソン・アレクシー 著

濱野 健 訳

米国の気鋭の人類学者が、21 世紀初頭の日本でフィールドワークを行った。離婚をめぐる女と男の叙述に注目し、現代日本の離婚を人類学的な観点から考察する。数多くの離婚という出来事と、背景にある現代日本社会の複雑さを描き出し、日本における夫と妻の関係性を温かく鋭く解き明かす。

定価：5280 円(本体 4800 円＋税 10%)／みすず書房